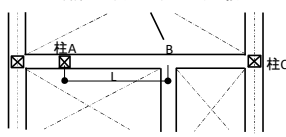


質疑回答一覧

令和3年度

質問No.	テキストの頁	質疑内容	回答	担当講師
1	(全頁)	参照している表や式の文献が可能な限り書いてあると助かります。	なるべくワークブック内の表や式を用いるようにしておりますが、ワークブック外(自分の論文など)の情報も入れ込んでしまっておりますので、今後の講習会では出典文献を記載するようにいたします。	先生方
2	P37	N値計算式について 今回想定しているモデルが2階建てのためとは思うが、3階建ての場合の1階の柱についても知りたかった。	N値計算の3階建てへの適用が適切かどうかを別として、N値計算の式の考え方を3階建てまで拡張した場合、3階建ての3階は「2階建ての2階」を、3階建ての2階は「2階建ての1階」を用います。 3階建ての1階柱のN値: $N = A1 \times B1 + A2 \times B2 + A3 \times B3 - L$ Ai: 各階柱の両側に取り付く耐力壁の壁倍率の差 Bi: 周辺部材による曲げ戻し効果 L: 当該柱にかかる鉛直荷重 N値計算の根拠の記述(河合直人: 継手・仕口、建築技術2000年10月号など)に準じて3階建ての1階のLを算出しますと、1.4程度(隅柱)、2.7程度(その他の柱)となります。構造計算ソフトなどでは、それぞれ1.6(隅柱)や2.6(その他の柱)という数値も用いられているようです。 いずれにしましても、建物の仕様に応じたLの値を安全側に考慮して利用すると思います。	小原先生
3	P167	正味断面積 A_0 の求め方がよくわかりませんでした。	$A_0 = b' \times d'$ となります。詳しくは木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2017年版)のP.113に解説が載っていますのでそちらをご参照ください。	山崎先生
4	P171 4.2.2	柱軸力による土台のめり込み なぜ検定が必要なのですか？	木材には方向性があり、軸方向と直交方向では弾性率(めり込みやすさ)が異なります。特に、直交方向がめり込みやすいです。 重層(2、3階)になるとその影響も受けやすいので、検討を要することもあります。例えば、耐力壁の側面等が例としてあげられます。	事務局
5	P199 P207	(柱は無いが、隣の区画の基礎立上りが接している)  ※図挿入 $\frac{W \cdot L^2}{8}$ 上部図の様な場合 の(L)はA~B間としてよいか？	「基礎梁の長期の曲げとせん断に対する検定」では、上の区画が大きい基礎区画であるため、この場合は単純に柱A-柱C間でLとします。	小原先生